よと陸海軍を激勵してゐるが彼等の喜び方は誠に口にするも馬鹿々々しい更に一層の勇氣とは今迄日本軍が勇氣と言ふものを持たなかつたからこそ言はれる言葉であらう、日本の軍事的冒險の破滅は正に近づきつつある。

内閣情報部六・二六　情報第四號

ノモンハン事件ソ聯側發表

同盟來電―不發表

モスクワ廿五日發（タス電）

ソ聯政府は滿蒙國境に關し一切沈默を守り事件の陰蔽に努めてゐたが、廿五日に至りタス通信社を通じ滿蒙國境事件に關する長文のコンミユニケを發表した。同コンミユニケは五、六兩月に亘る衝突事件の經過を詳述、事件の責任を日本側に轉嫁すると共に日本軍並に新聞紙がソ滿側の損害につき虚構の報道を流布してゐるとて左の如く述べてゐる。

「五月十五日以來數多の外國新聞紙は關東軍司令部の誤つた發表に基き外蒙人民共和國軍と日滿兩國軍との衝突を報じてゐる。又日本の新聞紙は之等國境衝突事件が外蒙軍の國境侵犯に依つて惹起されたものなりと虚構の事實を主張すると共に外蒙軍隊及び空軍が甚大の損害を蒙むつたと誇大な報道してゐる。右に對しタス通信社は外蒙共和國内にあるソ蒙兩國軍司令部から接受した報告に基き滿蒙國境衝突事件に關し確實なる報道をなし得る地位にあるか、滿蒙國境ボイル湖附近に於ける衝突事件の眞相次の通り

一、五月十一日、ノモンハン及びシヨロオボ（ボイル湖の東南、ハルハ河の東方約[illegible]乃至廿粁）

地方に於ける外蒙國境警備軍は突如日満軍から攻撃を受け國境線より西方ハルハ河に退却を餘儀なくされた、翌十二日から廿一日に至る十日間此の地方に於いては毎日國境衝突が繰り返へされその結果双方に死傷者を出した

一、五月廿二日、日満軍は援軍を得て外蒙軍に對し攻撃を加へ、外蒙共和國領内に前よりも一層深く侵入せんとしたが外蒙軍の反撃を蒙むり多大の損害を受けて國境線外に撃退された

一、五月廿八日、廿九日の兩日に亘り日満軍は満洲國ハイラルから戰車装甲自動車、砲兵及び多數の航空部隊より成る有力なる日本軍の援軍を受けて、再度外蒙國境に侵入し來つたが現場に急行した外蒙軍により直ちに撃退され多數の死傷者夥しい武器を遺棄して潰走し自國領内に退去した。此の戰闘に於て日満軍は四百名以上の死者を出し、外蒙軍は死者四十名、負傷者七十名を出した外蒙軍は本戰闘に於いて東中佐部隊の本部をも含む三箇所の日本軍本部を粉砕したが、右本部から押收した文書中には日本軍第廿三師團長小松原道太郎中將が五月廿一日付でハイラルより發したものに間違ない命令書があつた、該命令書中に於て小松原中將は他の諸事項と共に自己の麾下師團は獨力を以てハルハ河地帯外蒙軍を壊滅すべき」ことを命じてゐる。

尚本戰闘に於ては地上部隊の衝突の外航空部隊の間にも衝突があつた

△五月廿八日、日本軍戰闘機及び爆撃機の一隊は國境を侵犯、突如外蒙軍の二野戰飛行場を襲撃して來た、ソ聯軍並びに外蒙軍の戰闘機はこの圖らざる襲撃に遭ひ離陸に手間取り敵軍に極めて優利な條件を與へた。この戰闘に於てソ蒙軍は九機を失ひ、日本軍三機を撃墜したが、結局日本軍飛行機は憤徨として其の基地に後退することを餘儀なくされた

一、六月廿二日、日満兩國空軍は百廿機を以て新たなる攻撃を加へ來つた。よつて外蒙空軍は九十五機を以て之を邀へ撃ち戰闘を交へたが右の空中戰に於て日満軍卅一機ソ蒙軍十二機が夫々撃墜された

一、六月廿四日、日満軍は六月廿四日再び六十機を以て攻撃し來つたので外蒙及びソヴエト空軍は直ち同じく六十機を以て戰闘を交へた結果日本及び満洲國空軍の廿五機を撃墜した、本戰闘に於いて外蒙及びソヴエト空軍の損害は僅か二機に過ぎなかつた

一、六月廿五日には満蒙國境に何ら事件の勃發を見なかつた尚現在ソ蒙軍はハルハ河以東の縱線國境に沿つた地點全部を占領してゐる

右數回に亘る衝突に於てソ満軍の飛行機が日満軍の飛行機を追撃して止むなく満洲國領土的に侵入した場合を除きソ蒙軍は終始既定の國境線を維持し一回も満洲國境を犯したことはない。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

278

秘

内閣情報部六・二六　情報第五號

成都中央通信社新聞電報放送（二十一日）　（朝鮮總督府遞信局聽取）

一、香港報

(イ)日本軍駐屯軍司令官及び傀儡天津市長は日本軍當局が英佛租界の長期封鎖を決意したと發表し、租界内の居留民に對して即刻引揚を勸告する布告を發した。檢問所に於ける日本側の檢査は日増しに嚴重となつてゐるので、灼熱の太陽の下に終日待つても通行出來ないのではないかと考へ租界に出入する者は益々減少してゐる。又日本軍當局は昨日から租界を圍繞する鐵條網に充電してゐるので、野菜の租界搬入は事實上完全に停止された、一方日本側は勞働者の租界退去に對しては檢査を弛めてゐるが、これは英佛租界内の第三國工場に對する勞働力の供給を減少せしめる爲支那人熟練工を租界より退去せしめんとする計畫と解される、現在外國の罐詰工場、煙草工場、精油所、羊毛工場等が休業してをり、又支那人及び外人經營の一流レストランも新鮮な肉類や野菜の入手が不可能なので閉店してゐる。日本側に買收された白系ロシア人三千名はイギリス租界で悶著を起す爲親日運動を行ふ筈である。更に一隻のイギリス軍艦がイギリス租界碼頭に到着し、天津のイギリス軍艦は二隻となつてゐる。